

授 業 科 目 名	教職入門						
サブタイトル	「教職とは何か」を考える						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	2 単 位	開講時期	春秋期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	奥村典子					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワー（研究室に掲示）						
到達目標と学習の成果	到達目標 （1）目的 保育者の意義・役割・職務内容について理解し、自身の進路選択について考える。 （2）授業構成と到達目標 ①保育者の意義・役割・職務内容について説明できる。 ②保育者の特質や専門性について説明できる。 ③自己の保育者像を幅広い視野から考察できる。						
	学習成果 （1）保育者の意義・役割・職務内容について理解できる。 （2）自己の保育者像を幅広い視野から確立できる。						
ディプロマポリシーとの関連	1 自律的に学び、論理的かつ創造的に考える基礎を培う。 2 本科目は、カリキュラムマップ「幼児教育を探求する」に位置づく。						
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義・役割・職務内容を講義を通して学ぶ。 ・講義内容を深めるため、適宜、視聴覚教材などを題材として活用する。 ・グループワークやディスカッションを通して、自己の教職観を客観的に捉えるとともに、多角的に考察する力を育成する。 						
テキストと参考図書	参考書 『保育原理―はじめて保育の扉をひらくあなたへー』 咲間まり子編 株式会社みらい 2017年 受講者は購入すること。 参考書 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 参考書 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2008年 参考書 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府、厚労省、文科省 フレーベル館 2015年						
評価の要点	（1）保育者の意義・役割・職務内容について理解し、説明することができる。 （2）自己の保育者像を幅広い視野から確立でき、説明することができる。						
評価方法と採点基準	評価の要点に基づいて実施する中間試験（40%）、期末試験（60%）で評価します。						
履修上の注意事項や学習上の助言など	<ul style="list-style-type: none"> ・関心事項、問題点、不明な点は積極的に質問をして確認すること。 ・授業で紹介する参考文献を積極的に読むこと。 						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方を理解する。	授業科目の理解、課題の明確化	復習30分 (資料を読み直す)
2回	教育・保育とは 教育・保育の概念、社会的意義について理解する。	教育・保育の概念、社会的意義について理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
3回	子どもをとりまく状況 子どもをとりまく近年の状況を理解する。	子どもをとりまく近年の状況を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
4回	保育者の一日 保育者の職務内容を理解する。	保育者の職務内容を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
5回	保育者の意義・役割・倫理 保育者の意義・役割・倫理について理解する。	保育者の意義・役割・倫理について理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
6回	保育者像の変遷（西欧） 西欧の保育者像の変遷を理解できる。	保育者像の変遷を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
7回	保育者像の変遷（日本） 日本の保育者像の変遷を理解できる。	保育者像の変遷を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
8回	教職の基礎に関する中間試験 教職の基礎を理解する。 試験後、振り返りを行う。	教職の基礎知識を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
9回	保育者の研修・サービス・身分保障 保育者の研修・サービス・身分保障を理解する。	保育者の研修・サービス・身分保障を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
10回	保育者の文化・専門性 保育者の専門性について理解する。	保育者の専門性を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
11回	保育者に対する期待・評価 保育者に対する期待・評価について理解する。	保育者に対する期待・評価を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
12回	保育者に求められる資質・能力 保育者に求められる資質・能力について理解する。	保育者に求められる資質・能力を理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
13回	幼保小の連携 幼保小の連携について理解する。	幼保小の連携について理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
14回	諸外国の保育者 諸外国の保育者について理解する。	諸外国の保育者について理解し、説明できる。	予習30分 (テキストを読む) 復習30分 (授業内容をまとめる)
15回	まとめ 教職の意義・役割・職務内容等について理解する。	教職の意義・役割・職務内容等を理解し、説明できる。	予習60分 (今までの内容を振り返る)
試験	筆記試験 評価の要点に基づいて実施		

授 業 科 目 名	初等教科研究・家庭						
サブタイトル	家庭生活の基礎と諸課題の研究						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	1 単 位	開講時期	春秋期	出席要件	2/3
担 当 教 員	野上遊夏					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示						
到達目標と学習の成果	到達目標 到達目標 (1) 目的 小学校家庭科の学習内容における基礎的・基本的な事柄を確実に習得することができる。 (2) 授業構成と到達目標 ① 小学校家庭科の学習内容について理解することができる。 ② 小学校家庭科の指導に必要な知識を習得し、生活への関心をもつことができる。 ③ 教材研究への視点をもつことができる。						
	学習成果 学習成果 (1) 小学校家庭科の教育的意義を説明できる。 (2) 小学校家庭科の内容について、基礎的・基本的な知識を身につけることができる。 (3) 生活の中から教材を見つけ出し、実践に生かすことができる。						
ディプロマポリシーとの関連	2) 児童学を論理的、実践的に考究し、子どもの問題を多面的に捉えて問題解決ができる。カリキュラムマップの左から4列目、上から16段目の指導法を分かろうと魅力ある授業を作る力を身に付けるの交差する箇所に位置づけられる。						
授 業 の 方 法	1 小学校学習指導要領解説及びテキストから理論を学びます。 2 身近な生活を題材に、フィールドワークを行います。 3 生活課題についてグループ討議を行い、発表し学び合います。 4 題材のまとめりに、レポートをまとめます。						
テキスト参考図書	教科書 『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 東洋館出版社 教科書 『小学校家庭科教育研究』 教師養成研究会家庭科教育部会編 学芸図書						
評価の要点	1 小学校家庭科の内容を理解し、説明できる。 2 小学校家庭科の各領域の内容について基礎的・基本的な事柄を説明できる。 3 レポートやグループ討議等への取り組みや、意欲、態度も評価する。						
評価方法と採点基準	評価の要点に基づいて実施する期末試験（60％）とレポートおよび発表等（40％）で評価します。						
履修上の注意事項や学習上の助言など	レポートの提出は、期限を守ってください。 予習をして授業に臨み、復習を欠かさずすること。 開講時期により、シラバスの記載とは順序が入れ替わる可能性があります。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 家庭科教育の歴史 授業の目的、内容、進め方を理解する。家庭科教育の成り立ちを知る。	知識・理解	テキスト該当ページを読む（90分）
2回	小学校家庭科の内容 学習指導要領から、小学校家庭科の内容を理解する。	家族についての理解	テキスト該当ページを読む（90分）
3回	家族・家庭生活：家族とはなにか 家族の機能について考える。	家族についての理解	課題（90分）
4回	家族・家庭生活：家族の仕事と生活時間 家庭の仕事と生活時間について考える。	家族についての理解	課題（90分）
5回	衣生活：衣服の機能 衣服の機能について理解する。	衣生活への関心	課題（90分）
6回	衣生活：衣服の着装 快適な着装の仕方を理解する。	適切な着装の仕方	課題（90分）
7回	衣生活：衣服の管理 衣服を適切に管理する方法を理解する。	衣服の適切な管理方法	課題（90分）
8回	食生活：食品と栄養 食品の体内におけるはたらきを理解する。	食生活への関心	課題（90分）
9回	食生活：一食分の献立作成 栄養を考えた一食分の献立を作成する。	献立作成能力	課題（90分）
10回	食生活：食生活の課題 小学生の食生活の課題について知り、対策を検討する。	課題解決能力	課題
11回	住生活：快適な住まい方 住まいの機能について知り、身近な住環境の課題に気づく。	住生活への関心	課題（90分）
12回	住生活：住まい方の工夫 身近な住環境を改善する工夫を考え、発表する。	プレゼンテーション能力	課題
13回	消費生活と環境：家庭の経済・消費生活 家庭経済について基礎的な事柄を理解する。	適切な経済観念	課題（90分）
14回	消費生活と環境：環境に配慮した生活 環境に配慮した生活の実践事例について検討する。	環境に配慮した生活能力	課題（90分）
15回	小学校家庭科のまとめ 授業の振り返りを行い、小学校家庭科の指導内容における重要事項を整理する。	総合的な生活能力を育てる力	必要と思われるだけの時間
試験	評価の要点に基づいて実施します。 テキストを熟読し、ノートを見直すこと。		

授 業 科 目 名	カウンセリング論						
サブタイトル	カウンセリングとの出会い						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	2 単 位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	鈴木由美					授業形態	講義
質問受付の方法	研究室（3A14）に掲示						
到達目標と学習の成果	到達目標 (1) 目的 カウンセリングを理解する。代表的なカウンセリング理論の各定義を明らかにし、その理論の特質を学ぶことを目的とする。 (2) 授業構成と到達目標 ①カウンセリングの必要性について理解することができる。 ②カウンセリングの8つの理論の人間観・性格論・問題発生・援助目標について理解することができる。 ③カウンセリングの8つの理論の活用、限界、役割について、自分なりの考えをまとめるができ、折衷主義について理解ができる。						
	学習成果 (1) 現在なぜカウンセリングが必要になっているのかを明確に述べるができる。 (2) 代表的な8つの理論の作られた時代や創始者を理解し、各理論の人間観や性格のとらえ方、悩みに対する考え方、援助する際の方法の比較を述べるができる。 (3) カウンセリングの8つの理論について、長所と短所を理解し、実践や活用についての方向性を見出すことができる。 (4) カウンセリングを自分の悩みに関連づけて考え、問題を解決できる力を身につけることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	① 多様な価値観を受け入れられる人間性を持ち、多面的に捉えて問題解決ができる。 ② 教育学、心理学、福祉学、保健学、社会学などを基盤とする児童学を学び社会人となり、社会に貢献できる。 ③ 本科目は、児童心理コースのカリキュラムマップの「心のメカニズムを学ぶ/2年生心のはたらきを探ろう」に位置づけられており、15回の授業によりカウンセリング理論を習得することができる。						
授 業 の 方 法	1. 「カウンセリング理論」の教科書からカウンセリングの8つの理論を理解するとともに、事例や面接場面のビデオ映像をとおして、実践的に学びます。 2. 各理論についてシート（一覧表）を作成して、わかりやすい比較表を作成します。このノートは8回の授業で提出を求めます。 3. 芸術療法でコラージュを実施し、作成した作品についてグループ討論を行い発表し学びあい、体験シートを記入し提出します。 4. 提出した理論シートや体験シートは、次回の授業にコメントを入れてフィードバックします。						
テキストと参考図書	教科書 カウンセリングの理論 國分康孝 誠信書房 1980 教科書を使い授業を行いますので、必ず購入ください 参考書 ピアヘルパー ハンドブック 日本教育カウンセラー協会 2001 ピアヘルパーを受験する学生は必ず購入してください。						
評 価 の 要 点	1. カウンセリングの定義や歴史的背景について、理解して説明ができる 2. 対人関係ゲームや構成的グループエンカウンターについて、説明ができる。 3. 芸術療法について、方法を説明できる。 4. 8つの理論について、各理論の特徴や方法について、違いを比較しながら説明ができる。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	評価の要点に基づいて実施する期末試験（70%） 体験シート、理論のシート（15%）ディスカッションでの発言等（15%）にて評価します。						
履修上の注意事項の助言など	ノート・体験シート・理論シートは提出期限を守ってください。 「カウンセリング理論」の教科書で予習・復習をすること。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	<p>カウンセリングの定義と必要性を学ぶ</p> <p>カウンセリングの目的や内容を整理し、定義を把握する</p>	<p>カウンセリングの 基本と現状が理解できる。</p>	<p>予習 30分（テキスト）</p>
2回	<p>カウンセリングの歴史や背景を学ぶ</p> <p>カウンセリングの歴史を学び、その時代背景を理解する。</p>	<p>カウンセリングの 時代背景を把握できる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（ノートまとめ）</p>
3回	<p>カウンセリングの方法を理解し、ビデオにて面接を観る</p> <p>カウンセリングのやり方について理解し、実際のビデオで学ぶ。</p>	<p>カウンセリングの やり方が理解できる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（面接シートの記入）</p>
4回	<p>グループカウンセリング（対人関係ゲーム）を学ぶ</p> <p>グループカウンセリングを理解し、演習（対人関係ゲーム）にて実際に体験する。</p>	<p>対人関係ゲームの やり方を理解できる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（体験シート記入）</p>
5回	<p>グループカウンセリング（構成的グループ・エンカウンター）を学ぶ</p> <p>構成的グループ・エンカウンターの方法を学び、実際に体験をする。</p>	<p>構成的グループ・ エンカウンターが 理解できる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（体験シートに記入）</p>
6回	<p>精神分析理論を理解する</p> <p>精神分析での人間観。性格論・問題発生・援助目標・ カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ</p>	<p>精神分析を理解 できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
7回	<p>自己理論（来談者中心療法）</p> <p>自己理論（来談者中心療法）での人間観・性格論 問題発生・援助目標・カウンセラーの役割・ クライエントの役割・限界を学ぶ</p>	<p>自己理論（来談者中心療法） を理解できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
8回	<p>行動理論</p> <p>行動療法での人間観。性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ</p>	<p>行動療法を 理解できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
9回	<p>実存主義理論</p> <p>実存主義理論での人間観・性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ</p>	<p>実存主義を理解 できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
10回	<p>論理療法</p> <p>神分析での人間観・性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ</p>	<p>行動療法を理解 できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
11回	<p>ゲシュタルト療法</p> <p>ゲシュタルト療法での人間観・性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ</p>	<p>ゲシュタルト療法を 理解できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
12回	<p>交流分析</p> <p>交流分析の人間観。性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ</p>	<p>交流分析理論 を理解できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
13回	<p>内観療法・森田療法</p> <p>内観療法・森田療法の人間観。性格論・問題発生 援助目標・カウンセラーの役割・クライエントの役割 限界を学ぶ</p>	<p>内観療法・森田療法 の理論を理解できる ようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）</p>
14回	<p>芸術療法（コラージュ療法）</p> <p>芸術療法の理論を学ぶ。実際にコラージュ療法を 体験する。作品を通してディスカッションを行う。</p>	<p>芸術療法を理解 できるようになる。</p>	<p>予習30分（テキストに付箋） 復習30分（体験シートに記入）</p>
15回	<p>カウンセリングのまとめ</p> <p>授業を振り返り、8つの理論について シートを使って、ポイントをまとめる。</p>	<p>カウンセリングの 理論について理解 できるようになる。</p>	<p>復習90分</p>
試験	<p>評価の要点に基づいて実施します。</p> <p>8つの理論について、10問ずつ問題を出します。教科書と理論のシートを熟読すること。</p>		

授 業 科 目 名	図書館概論						
サブタイトル	現代社会における図書館の基本機能と役割						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	2 単 位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3以上の出席
担 当 教 員	村山隆雄					授業形態	講義
質問受付の方法	相談時間を研究室ドアに掲示						
到達目標と学習の成果	到達目標						
	①図書館の専門職である司書として必要な、図書館全般に関する基本的知識の習得と専門用語を理解することができる。 ②図書館業務をこなすための基礎的な能力を身につけることができる。						
	学習成果						
	図書館の社会的意義、基本機能、多様性を理解することにより、図書館界全体を俯瞰する能力が醸成される。						
ディプロマポリシーとの関連	情報専門家として活躍するために必要な能力を育成し、併せて、広い視野と優れた識見、柔軟な思考力と行動力を育む。 *文学部文学科図書館情報コースのカリキュラムマップの1年次の秋学期「知識ベース社会に必要な知識とスキルを身につける」に位置づけられる。						
授業の方法	①パワーポイントを用いて、講義形式で授業を行うが、視聴覚資料とカレントな図書館関連情報を適宜利用する。 ②デジタル環境下の図書館、図書館と国民の知る権利の関係等を一緒に考えるためにディスカッションする。 ③授業の理解度を学生自らが把握するために、適宜小テストを実施する。						
テキストと参考図書	教科書 図書館情報学基礎資料 今まで子・小山憲司編著 樹村房 2016年						
評価の要点	①理解度を把握するためと表現力をつけてもらうために、中間期にレポートの提出を求める。設問に的確に答えることはもちろんであるが、考えを自分のことばでまとめることが重要である。 ②期末試験は記述式の問題で実施する。その際、ノート、配布資料、教科書の持ち込みは自由。この場合も自分のことばで説明できているかを評価の対象にする。						
評価方法と採点基準	中間期のレポート（30%）、期末試験（70%）の総合点で評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言など	司書資格取得のための基礎的な力をつける科目である。日頃から図書館を利用するとともに、図書館、出版、電子情報環境に関する新聞や雑誌記事にも注意を払うこと。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス：現代社会と図書館 図書館図書館制度の現代的意義について	専門的職業人として活躍するために必要な能力	前川恒雄、石井敦、新版図書館の発見（日本放送出版協会、2006）を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
2回	図書館を支える活動理念 国民の知る権利を保障し、地域の生涯学習の拠点、地域情報の発信機能、地域の交流拠点など様々な公共図書館の機能を支える理念について	専門的職業人として活躍するために必要な能力	日本国憲法を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
3回	出版と図書館 図書館はビジネスとしての出版物や国・地方公共団体の出版物を収集し、提供してきました。我が国の出版界や書籍取次の現状と課題、出版界と図書館との関係などについて	専門的職業人として活躍するために必要な能力	最近の図書館・出版関連の新聞記事を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
4回	著作権と図書館 複写は図書館サービスの重要な位置を占めている。著作権者が持つ複製権を一定の要件の下で制限することにより、可能になっている図書館における複製の根拠「著作権法」について学ぶ。併せて、インターネット時代における「ネット作法」についても学ぶ。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	『図書館情報学基礎資料』の「著作権法」の箇所を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
5回	図書館関連法規と行政・政策 「図書館法」を初めとする図書館関連法の体系・法律の概要、法律・行政・政策の関係	専門的職業人として活躍するために必要な能力	「図書館法」や2006年に公表された「これからの図書館像」など、重要な法律や提言を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
6回	地域社会と図書館 地域の「知る権利を保障する拠点」「情報拠点」「生涯学習の拠点」「交流の拠点」など、公共図書館は様々な機能	専門的職業人として活躍するために必要な能力	身近な公共図書館を訪問し、図書館の利用に慣れておくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
7回	公共図書館の制度と機能 公共図書館の主要な構成要素や公共図書館の機能、現状と課題	専門的職業人として活躍するために必要な能力	『図書館情報学基礎資料』の「図書館法」を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
8回	学校図書館の制度と機能 学校図書館の主要な機能、専門職員の配置の問題にも焦点をあてながら、学校図書館の現状と課題について学ぶ。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	『図書館情報学基礎資料』の「学校図書館法」を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
9回	大学図書館の制度と機能 調査研究と学びをサポートする大学図書館の機能と学術情報の流通における大学図書館の位置づけなど、大学図書館の現状と課題について学ぶ。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	本学の大学図書館を訪問し、図書館の利用に慣れておくこと（予習60分） 授業のまとめ（60分）
10回	専門図書館の制度と機能 民間企業の必要性から設置されたものや、法律に根拠を持つ国が設置したものなど多様な専門図書館の機能、現状と課題について学ぶ。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	専門図書館協会のHPにアクセスして、専門図書館の概要を掴んでおくこと（予習60分）
11回	国立図書館の制度と機能 国立図書館は国を代表する図書館として、法定納本制度に基づく国内出版物の網羅的収集や同制度により収集した出版物を網羅的に掲載した全国書誌の作成など機能がある。国立図書館の主要な機能、現状と課題について我が国の国立国会図書館を中心に学ぶ。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	『図書館情報学基礎資料』の「国立国会図書館法」の箇所を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
12回	外国の図書館 ドイツの図書館制度に焦点をあてながら、外国の図書館の実情について学ぶ。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	外国の図書館に関する本や記事を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
13回	図書館協力和図書館関係団体 どんなに大きな図書館でも一つの図書館だけで、利用者の満足度を高めるのは、とても難しくなっている。利用者へ、より豊かな図書館サービスを届けるための図書館間の協力やデジタル環境下で、一層、重要になっている博物館や文書館との連携協力、及び、図書館関連団体の多様性とその概要を学ぶ。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	日本図書館協会のHPにアクセスして、協会の概要を把握すること（予習60分） 授業のまとめ（復習60分）
14回	これからの図書館 公共図書館は歴史的、社会的存在であり、絶えず社会とコミュニケーションをとりながら、発展してきた。緊縮財政下やデジタル環境下での公共図書館の現状と課題について学び、公共図書館自らが、その有用性を証明する方策について考える。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	猪谷千香『つながる図書館：コミュニティの核をめざす試み』（筑摩書房、2013）の関連箇所を読んでおくこと（予習60分） 授業のまとめ（復習）
15回	まとめ 図書館の多様な館種、主要な機能、現状と課題などを整理し、まとめる。	専門的職業人として活躍するために必要な能力	配布資料を整理して、理解を深めておくこと（予習60分） 授業全体のまとめ（復習60分）
試験	筆記試験を実施する。 中間期のレポート（30%）と期末試験（70%）の総合点で評価する。		